

# 図書館だより

秋田大学附属図書館  
年3回刊行(4月・10月・1月)

附属図書館ホームページ  
医学部分館ホームページ

<http://www.akita-u.ac.jp/ktakalib/>  
<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



八森山、大母谷山

真澄の道を辿って5 岩館町側から八森山(中央)を眺む。右は大母谷山、左は眞背内山。  
「天慶七年の秋八月、地震大いにふりつづきて、村の榭屋も埋れしかば、村は湯泉沢にうつして、八森あれば八森とは村名にせり」  
(雪乃道奥、雪の出羽路より) 秋田大学名誉教授 山本穆彦氏:画

## 目次

- |       |   |      |                                    |
|-------|---|------|------------------------------------|
| P. 2  | 読書の喜び:パソコンとの共存 苗村 育郎<br>トピックス           | P. 8 | 研修報告2.「第18回大学図書館研究集会」に参加して<br>小林 清 |
| 3     | シリーズ 心に残る一冊(18) 福留 高明<br>2002年 購入雑誌について | 9    | 「利用者からの要望・意見」より<br>おしらせ            |
| 4 ~ 5 | 「學貴日新」に思う 石川三佐男                         | 10   | 医学部分館コーナー                          |
| 6 ~ 7 | 研修報告1. 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修<br>高橋 孝一     | 11   | 図書館カレンダー                           |
|       |   | 12   | 掲示板<br>編集後記                        |

# 読書の喜び：パソコンとの共存

保健管理センター長 苗村 育郎

コンピュータと情報通信によって、文書や映像が電子化された時代においても、なお「本」の魅力は失われないと、私は個人的経験から確信してきた。自分の居場所にはどこでも、パソコンと書物が同じ権利で置かれているというのは、私だけではないだろう。

美しいカバーと装丁の本を入手して、丁寧にスコッチテープで止めながら、目次に目を通すときの期待と喜びとは、コンピュータにはないものである。また、重要な箇所に線を引ながら理解や記憶作業を進めてゆくときの充実感は何十年も前と少しも変わらない。ベッドの中でも読めるという手軽さも、本の魅力を著しく高めている。これらの事実と作業とが、愛好家が本を捨てられない理由の一つであり、電子図書企画が出版業においても図書館においても部分

的にしか成功しないことに関連している。

内容や写真を記憶にとどめ、理解を深める上で「反復」は欠かせないものである。とりわけ何度も読みこなす努力がなされ、下線や書き込みのなされた本は、理解と思考の効率を著しく高めている。内容検索速度も、コンピュータより桁違いに早いことが多い。すなわち、構造的理解の質と効率とが急速に改善されていくという点において、書物とコンピュータとはその役割を異にしている。電子出版がさらに自由度を高め、色彩や内容の変更、メモや辞書や質問などのinteractiveな性格を高めていったとしても、やはり本はその不器用な物的存在としての魅力と効率とを失わないだろう。

(なむら いくろう

保健管理センター 教授)

## トピックス 本館

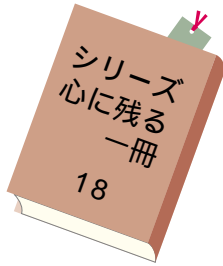
### ブラウジングコーナーが明るくなりました

去る11月24日に蛍光灯を増やす工事が終わり、今まで暗かったブラウジングコーナーが明るくなりました。

### 図書館見学

下記の高校のみなさんが見学にきました。

- ・ 10月11日 弘前中央高校(青森県)
- ・ 10月16日 横手城南高校
- ・ 11月14日 湯沢高校



## 人びとのアジア - 民衆学の視座から

中村尚司 著

岩波新書 1994年 620円

福留高明

狂牛病問題が日本人を不安に陥れている。食の“豊かさ”を追求するあまり、4つの胃袋を持ち草食動物の代表格ともいべき牛に肉食を、しかも共食いをさせてしまったゆえに人間みずから招いた悲劇である。

「本当の豊かさとは何か？」と問い続けてきた著者の前に照らし出されたものは 日本的貧しさ と、そして アジア的豊かさ であった。いまや私たちが学ぶべきは欧米のエリートではなく、名もなきアジアの人びとからである。彼らの日々の暮らしの中にこそ学ぶべき「本当の豊かさ」があり、そのためには「私の生き方、私の社会的な活動そのものを私が研究する」、いわば「一人称で語る学問」を身につけねばなら

ない -- と著者は説く。

「インド人やネパール人からいったい何を学べというのか！」という疑問の声に著者は次のように答える。「インドの人たちは牛肉を口にするどころか、働けなくなった牛のために養老院を建てる」。

本学にもアジア諸国から多くの留学生がきているが、そうした人びととの関係性にこれまでとは別の切り口があることを気づかせてくれた一書である。

(ふくどめ たかあき

工学資源学部助教授)

この本は本館新書版コーナー(2F)の080-195-S360にあります。

### 2002年 購入雑誌について

雑誌情報係

2002年購入雑誌リストがまとまりました。

ホームページのトップから、それぞれの「購入雑誌情報」をご覧ください。

本館 <http://www.akita-u.ac.jp/ktakalib/>

分館 <http://libra.med.akita-u.ac.jp/>

なお、新規・中止の雑誌数は次のようになります。

本館	国内雑誌	外国雑誌
新規	9誌	10誌
中止	43誌	157誌
分館	国内雑誌	外国雑誌
新規	5誌	15誌
中止	3誌	16誌

国内雑誌には、国内発行欧文誌が含まれます。



# 「學貴日新」に思う

教育文化学部教授（中国古典文学） 石川 三佐男



高校生の大学訪問や友人等の来訪があった際に、誇りをもって案内している場所がある。東洋の巨星・内藤湖南先生<sup>(注1)</sup>の扁額<sup>(注2)</sup>作品「學貴日新」が掛かる本学附属図書館内の一角がそれである。

私の文章はここでは欧文体風に横書きなので、扁額の四文字を左から順に「學貴日新」と表記するが、実際の作品は東洋文化伝統の書表現形式にならい、右から順に一字目が「學」(教育用漢字の「学」は學の字の省略形)、二字目が「貴」、三字目が「日」、四字目が「新」となっている(写真上)。そして四字句の句末の左側には湖南先生の本名である内藤虎次郎の最初の三字「内藤虎」が縦書きで署名されている。また扁額の右上隅には陽刻の関防印<sup>(注3)</sup>「藏之名山」が押され、署名の「内藤虎」の左側には落款印<sup>(注4)</sup>として陰刻の姓名印「内藤虎印」と、陽刻の字印「炳卿」(同輩等を星のように明るく照らし輝かす意か)が押されている。年号等は書き込まれていないものの、湖南先生の正真正銘の作品であって、扁額作品として完璧の出来映えとなっている。

この作品は、京都大学中国史研究の指導者的立場となり、東洋史学の創始者として令名が高かった内藤湖南博士(1866年～1934年)が、晩年に当たる1930年(昭和5年)、自身の母校である秋田県師範学校(本学教育文化学部の前身校)の保戸野校舎新築落成記念として同校に寄贈されたもの。以来、多くの若い学生諸子、教職員等の教育指標として仰がれ、戦中戦後の困難期をはさんで、時には掲額場所や所蔵場所を移しつつ、現在に至っている、という。

「書は人なり」という言葉がある。湖南先生の書作品は、きちんとした人柄や思考が理詰めであることを反映して生涯を貫いて楷書体が多く、中国清朝時代の学者たちの書作品と並んで「清楷」と称され、関西を中心に広く愛好されている。しかし近ごろ、われわれの身近にある「學貴日新」については、右から読むのか左から読むのか、意味はどのようなかが分からないばかりでなく、湖南先生の人となり等にほとんど無関心、無頓着な人が多くなっているように思われる。中国の古典に次のような著名な成語がある。

- ・ 故きを温ねて新しきを知る。 「温故知新」(『論語』為政篇)
- ・ 徳は日に新たなるを貴しとす。 「徳貴日新」(『揚子法言』李軌注)
- ・ 苟に日に新たなれば、日々に新たに、又日に新たなり。  
「苟日新、日日新、又日新」(『礼記』大学篇)

「學貴日新」の句はおそらくこれらの成語をふまえたもので、訓読すれば「学は日に新たなるを貴しとす」となる。意味は「学問を行う上で大切なことは不断の精神を持って継続することである」と受け取るのもよし、また「学問は尊いのだから日々に新鮮な気持ちで取り組もう」と受け取るのもよいだろう。いずれにせよこの四字句には、中国の先人たちの掬すべき知恵と、湖南先生の学殖からにじみ出た尊い教えが込められていることはまちがいない。その意味では値千金の重みをもっているといつてよいであろう。

なお扁額作品の右上隅の関防印「藏之名山」は、訓読すれば「<sup>これ</sup>之を名山に藏す」となる。この四字句は中国前漢の歴史家・司馬遷が『史記』百三十巻を書き上げたあと、その正本を名山に藏し（「藏之名山」）、副本を京師に置いたという故事に基づいている。これも東洋史学者としての湖南先生ならではの撰句であって、作品全体に心憎いばかりの雅味を与えている。ついでに言えば、「湖南」の雅号は中国湖南省の「湖南」を彷彿させるが、一般には湖南先生が長く住んだ京都が琵琶湖の南に位置していることによると考えられている。しかし実際は湖南先生の出身地、鹿角市十和田毛馬内が十和田湖の南に位置していることによったものである。



内藤湖南先生

東洋の巨星・内藤湖南先生はいつもわれわれの身近なところに存在している。にもかかわらず、われわれはとかく秋田県固有の風土や文化遺産 - たとえば世界に誇り得る秋田蘭画<sup>(注5)</sup>や秋田漢詩<sup>(注6)</sup>等 - をあまり意識せず、中央や遠く離れたところばかりに目を向けてはいまいか。

「學貴日新」の句は、われわれに学問を行う上の大切な指標を示しているだけでなく、もっと足下を見つめなさいよと語っているようにも思われる。

(注1) 内藤湖南 - 1866年(慶応2年) 鹿角郡毛馬内(当時)の南部藩の儒家に生まれた。秋田県師範学校を首席で卒業後、北秋田郡綴子小学校の主席教員となる。その後大阪朝日新聞などでジャーナリストとして活躍。幼少からの漢学力と個人的に外国人英語教師について培った豊富な語学力により、中国の歴史、文化の研究を次第に深めていった。後に京都大学の教授となり、京都大学中国史研究の指導者的立場となり、「内藤史学」という学風を樹立。東洋史学の発展に大きく寄与した。

(注2) 扁額 - 門戸や室内に掛ける横に長い額。

(注3) 関防印 - 書画の始まりの位置を示すために押す長方形の印。

(注4) 落款印 - 書画が完成したとき作者が署名した上で押す印。陰刻印と陽刻印が併用されることが多い。

(注5) 秋田蘭画 - 江戸期の狩野派や南蘋派の漢画に新たに陰影法や遠近法を加えた洋風画のスタイルを総称していう。

(注6) 秋田漢詩 - 益戸滄洲の五百余首を始めとする江戸期秋田漢詩人の五千余首の漢詩を総称していう。

## 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修

情報システム係 高橋 孝一

現在、電子ジャーナルを提供（販売）している学術系出版社・機関は、1．商業出版社、2．電子ジャーナル専門（代行）出版社、3．学術機関（学会、大学出版社含む）、4．その他 があります。

1はElsevier、Springer、Academic Press（AP）、Wiley、Blackwell Scienceなどの大手出版社がそれぞれ自社系列の電子ジャーナルをScience Direct、LINK、IDEAL、Interscience、Synergyの商品名で提供しています。2は複数の出版社や学術機関の電子ジャーナルを併せて扱ういわゆるアグリゲータと呼ばれるingenta（CatchWordを吸収）、3はOxford、Cambridge、Chicagoなどの有名大学出版社や英国物理学会、国立情報学研究所など、4は無料で学会等のジャーナルを提供しているHighwire Press（制限有）、JST：科学技術振興事業団（J-STAGE：国内刊行誌対象）などがあげられます。

秋大図書館はコンソーシアム：JIOC/NU（Japan IDEAL Open Consortium/National University）参加により2002年はAP社約270タイトルの電子ジャーナルフルテキストが学内で利用可能になる予定です。（詳細は図書館だより51号参照、また閲覧可能の電子ジャーナルについては図書館ホームページ〔HP〕で随時ご案内いたします）

現在、本学でも電子ジャーナルはトライアル分を含めて図書館HPで多数紹介しておりますが、まだ十分活用されているとは言えません。図書館側としてもデータベース検索機能も備えた便利な電子ジャーナルのさらなる普及とご理解を頂くためにも利用者（ユーザー）教育担当者の育成が必要になっており、昨年千葉大学で国立大学図書館の担当者研修が行われました。秋大からも私が参加しましたので内容について述べさせていただきます。

まず現在、世界の電子ジャーナルでメジャーな学術雑誌多数を抱える上記1の出版社5社の担当者による各商品の内容、機能、使い方の説明があり実際に検索演習を行いました。基本的な機能（雑誌名のほかキーワードやタイトル、著者名などからの検索とフルテキスト閲覧や参考文献リストのリンク機能）は共通していますが、各社ごとにインターフェイス（検索画面や検索法）は異なっており、それらの修得がユーザー教育担当者には必須ですが、時間的制約やサーバレスポンスの問題などで充分訓練できたとは言えず課題が残りました。各電子ジャーナルサイトも日々更新されており、それらの最新情報入手も含めて今後現場での実践、研鑽が必要と言えます。

次に名古屋大学図書館の電子ジャーナル教育の実例として「教育プログラム・テンプレートについて」と題して事例報告があり、名大で導入しているScience Directの利用者教育の流れを解説していただきましたが、今後の各大学図書館における実践の雛形として参考になりました。

“インターネットを利用したハイパーテキストとして学術情報が実現するようになると従来の学術研究コミュニティの脈絡が変化してくる。すなわち時間的、空間的に従来の文献収集（文献目録作成、論文コピーのファイル、引用文献調査、論文記述の再検証、研究動向調査等）の方法や意味に変化が起きてくる。それに対応し図書館における利用者教育で的確な脈絡を提供することがこれ

からの研究の促進と研究者養成において不可欠である”(土屋千葉大学附属図書館長)

その一環として電子ジャーナルユーザーへの利用教育(支援)は重要なものと位置付けられます。当館でも電子ジャーナル正式導入後は説明会など計画しておりますが、現在学内で利用可能のものに関して質問、要望や図書館検索コーナーでの操作説明などは随時受け付けておりますので先ず色々とお試しくさるようお願いいたします。





# 「第18回大学図書館研究集会」に参加して

利用サービス係 小林 清

去る9月13日～14日の2日間、一橋大学国立キャンパスにおいて「二十一世紀における大学図書館の役割と責務」のテーマで、第18回大学図書館研究集会が国公立大学図書館職員約250名の参加のもと盛大に行われた。第1分科会の「学術情報の流通と共同化」に分館の伊藤邦恵が、また第2分科会の「情報リテラシーと相互協力」に私が参加した。第3分科会は「所蔵情報の公開と資料保存及び共同化」であった。2人を代表して私が報告する。

内容に入る前に、会場となった一橋大学の図書館を見学した時のことを書きたいと思う。一橋大学国立キャンパスは国立駅からまっすぐに伸びた道路を5～6分歩くといかにもという雰囲気の木立の中にあった。

図書館の建物は古く、明治か大正時代を思わせる洋風の建物で歴史が感じられた。建物の中は数年前増改修したということで、新しくてきれいであった。古い建物に似合わないブックディテクション（学生は自分のカードを機械にあてるだけでバーが開く）やコンピューターシステムに目を見張った。2階には大閲覧室があり古くてきれいな木造のテーブルや、有名教授の胸像があり、一瞬タイムスリップしてその時代に戻ったような錯覚を覚えた。移動書架も新設され、スペース的にも十分余裕があり、素晴らしい図書館であった。

さて、研究集会であるが、開会式後、石弘光一橋大学長の基調講演があり、引き続き1から3の分科会に分かれそれぞれのテーマで事例発表が行われた。各コマ30分で事例発表・助言・質疑応答が行われた。今回は各分科会ごと（2日間で全21コマ）や発表者など各コマ毎に分科会を移動できるようになっていて、参加者が聞きたい会場へ自由に行き来できるのが特徴であった。しかし、その分時間に追われ深く討議ができなかったような気がした。

さて、私は第2分科会の「情報リテラシーと相互協力」に参加したが、情報リテラシーの捉え方や見方の違いによって、発表が私の聞きたい内容と違うものがいくつかあったが、それでもそれなりに収穫はあった。

ある大学では教官との連携を密にし「必修科目」としたり、ホームページ上で授業案内をしたり、また授業ばかりでなく図書館としてもガイダンスを行っているなど、それぞれの大学で力を入れている様子が窺われた。ある発表者の「今の時代、小中学生から情報教育が行われており、その子供たちが大学生になる頃には初心者向けの情報リテラシー教育は不要となり、より高度な教育が求められるのではないか。そのために、図書館員の高度な情報リテラシー教育が必要となる。」との言葉が印象に残った。

2日間の研修が終わり全体会があり、それぞれの分科会のまとめを発表し、閉会となった。今回は国公立大学の参加であり、それぞれ設置母体が違うが図書館員としてみんな頑張っているとの印象をうけて国立キャンパスを後にした。



# 「利用者からの 要望・意見」 にお答えして

本館抜粋

**Q** インターネットでフリーメールやソフトのダウンロードをしていたら注意された。おかしいのではないか。

**A** 図書館のパソコンは、文献検索用で学内の利用者が共同で利用するものです。その手段としてインターネットが使用できるようにしています。従って図書館でのインターネット利用は上記目的に限定され、私的利用など注意事項に反する行為は禁止しておりますのでご了承ください。

**Q** 開館時間を早くしてもらえないか。

**A** 現在、職員は8：30からの勤務ですが、開館する前に机や椅子の整理整頓、掃除、図書の配架、新聞の用意等々の準備作業があり、約20～30分程かかります。十分なサービス体制を整えるためにはどうしても必要な準備作業で、それらを終了してからとなるとどうしても現在の開館時間となります。どうぞご了承ください。

**Q** 職員の電話の対応や、カウンターでの対応が悪い。

**A** 大変申し訳ありませんでした。今後このようなことがないように注意するよう全員に通知いたしました。

おし  
らせ

図書館本館でノートパソコンを持ち込み、使用するとき  
は、入力音等が他の利用者の迷惑となりますので、**1階情報  
検索コーナー**にある机をご利用ください。それ以外の  
場所での使用は禁止されています。

なお、**分館は第2閲覧室**のみ許可しております。

# 医学部分館コーナー

## 利用案内

### 演習室(会議室)

グループでの利用ができます。

レポートの作成や卒研の打ち合わせなどにご利用ください。

\* 2週間前から予約を受け付けます。

\* 1回の利用時間は2時間以内です。ただし次に予約が入っていない時には、延長して利用することもできます。

### 視聴覚室

それぞれカセットテープ・ビデオテープ・CDが視聴できる個室が5部屋あります。

資料は、ホームページ上で公開している所蔵リストで確認してください。10年度以降受け入れの資料についてはOPACでも検索できます。

上記の部屋を利用するにあたっては、学生証もしくは利用者カードを持参のうえ、一階カウンターにお申し込みください。

利用時間 平 日 8:45~19:45

土・日・祝日 9:00~16:45

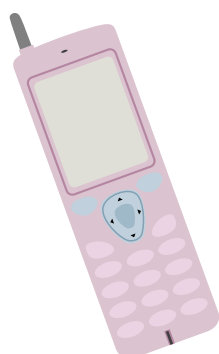
## 電話番号が変わりました

文献複写など相互貸借のお問い合わせは ..... 6 2 1 9

図書・雑誌の発注・受入については ..... 6 2 1 8

カウンターへのご用事は ..... 3 1 1 9

その他図書館業務全般に関するお問い合わせは ..... 6 0 5 2



### 携帯電話で分館の情報を提供しています

i-mode用 <http://libra.med.akita-u.ac.jp/i/>

J-SKYWEB用 <http://libra.med.akita-u.ac.jp/j/>

EZ-web用 <http://libra.med.akita-u.ac.jp/e/>

次のような情報をお知らせしています。

お知らせ 開館日・時間 学外の方の利用

交通アクセス 問い合わせ先

# 図書館カレンダー

(2002年1月 - 4月)

休館

休暇開館時間 8:45~17:00

平常開館時間 8:45~20:00

土曜開館時間 9:00~17:00

## 本館

### 1月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

## 分館

### 1月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 2月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

### 2月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

### 3月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 3月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 4月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

### 4月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## 掲 示 板

卒業生および修了生のみなさんへ

借用中の図書は忘れずに返却してください。返却期限は **2月28日(木)** です。

**2月1日(金)**から**2月17日(日)**までの間、図書館システム更新のため、OPACの使用が出来ない等、ご迷惑をおかけする場合がありますのでご了承下さい。

学外へ文献複写及び図書借用を依頼する場合は **1月24日(木)**までにお申し込み下さい。

(それ以降はシステム更新後となります。詳細はカウンターでお尋ね下さい)

春休み期間中の貸出について

### 本 館

本館の春休みの長期貸出は次の通りです。

**2月15日(金)**から

返却期限 **4月12日(金)**

冊 数：学部学生 5冊

大学院生 10冊

### 分 館

分館の春休みの長期貸出は次の通りです。冊数は通常と同じです。

医 学 部：**2月20日(水)**から

返却期限 **4月3日(水)**

医療短大：**2月17日(日)**から

返却期限 **4月10日(水)**

**3月18日(月)**より**3月31日(日)**までの間、蔵書点検のため、休館です。

訂正とお詫び

前回51号の14頁「本学教官等著作寄贈図書」に誤りがありました。下記のように訂正してお詫びいたします。

誤：今 井 祐 一 → 正：今 井 裕 一

## 編 集 後 記

秋田の冬は長く、厳しいですが、降りしきる雪を眺めながらあたたかな室内で読書、というのも、この季節ならではのものです。

どうぞ図書館で、ゆっくりと流れる北国の冬の時間をお過ごし下さい。

## 図書館だより 第52号

2002年1月10日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会

発行 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052

FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252